

図10.1 法人企業の経常利益の大・中堅・中小企業のシェアの1次元位相図

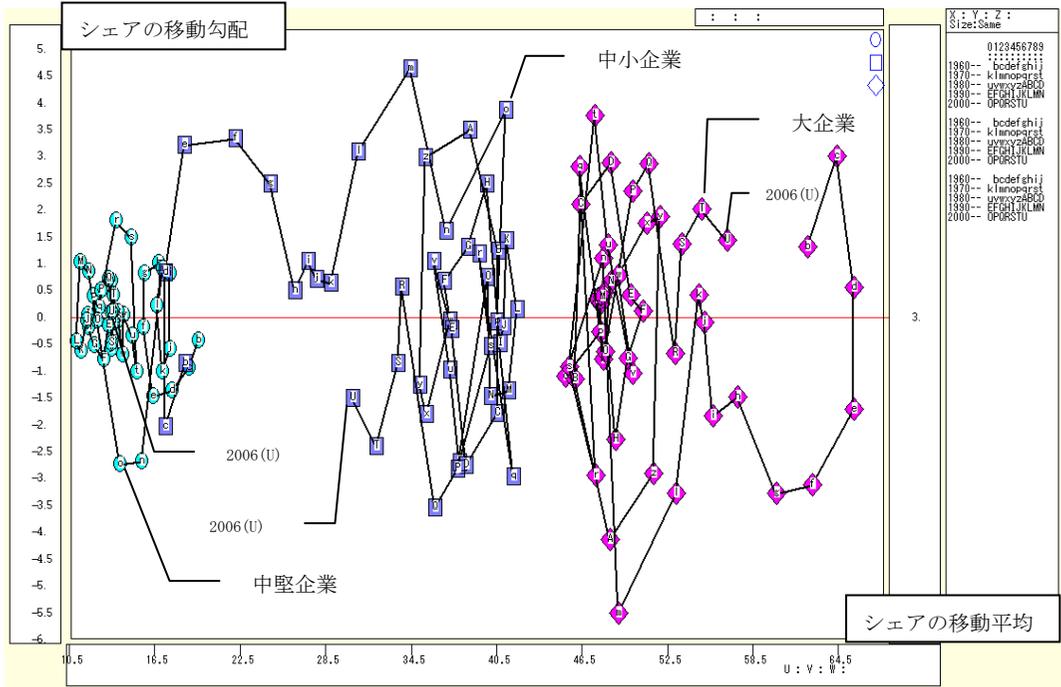
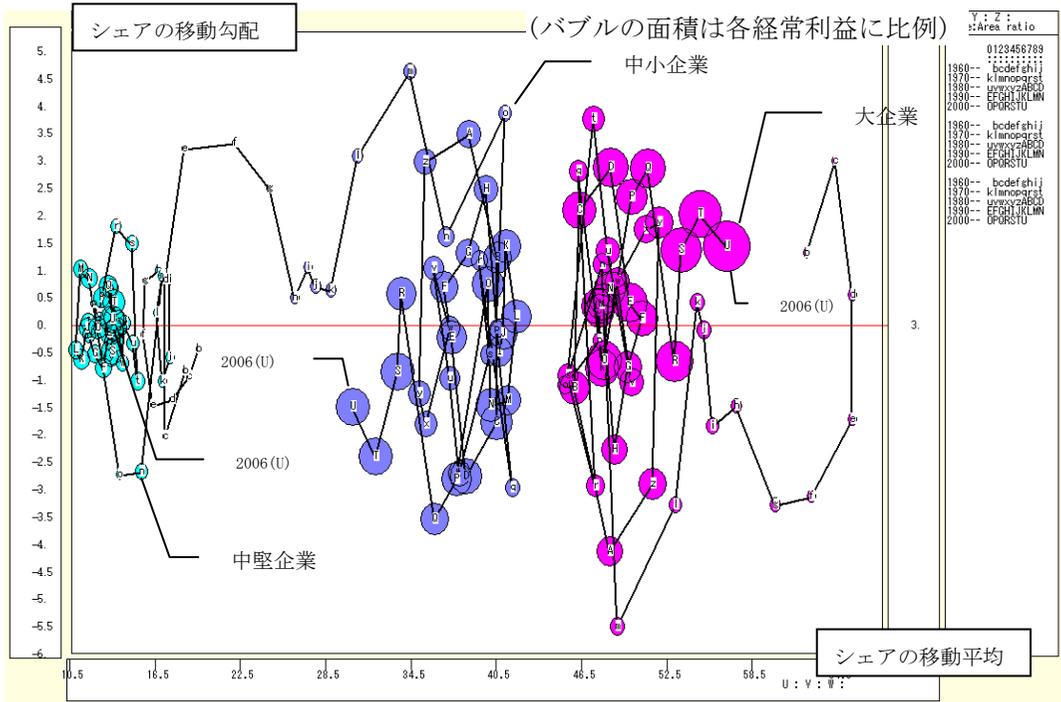


図10.2 法人企業の経常利益の大・中堅・中小企業のシェアの位相バブルグラフ

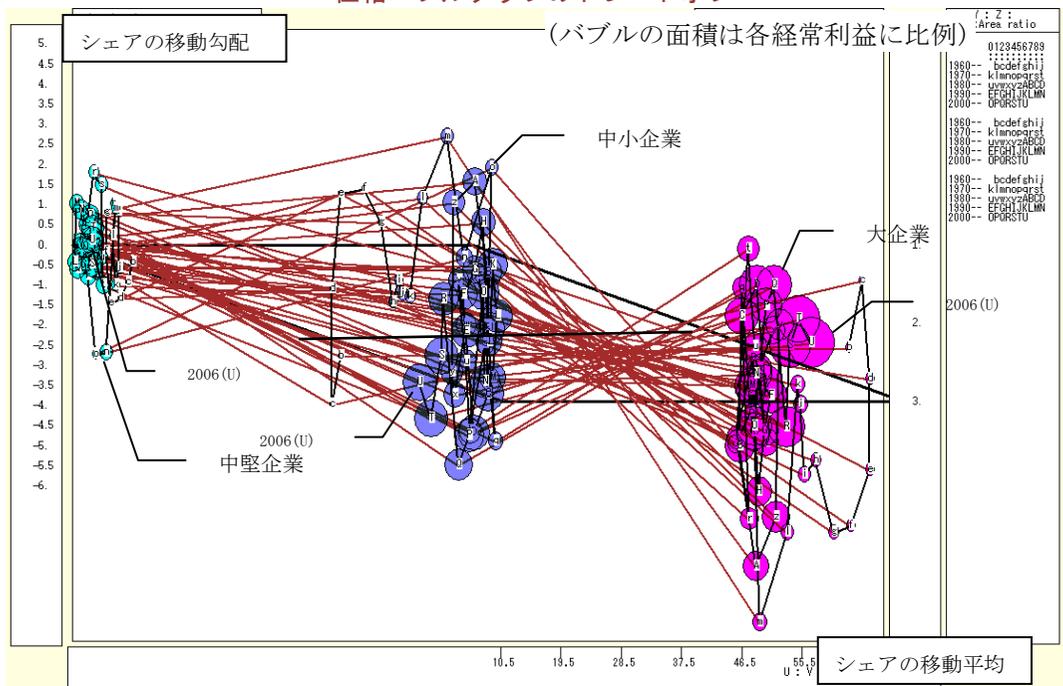


てみよう。◇印、○印、□印をそのままバブルサイズを可変にすることもできるが、面積の相互比較には同じ形の○印の方がよいであろう。

図 10.2 には、通常のシェアに関する 1 次元位相図に加えて、シェア計算の各分子に当たる経常利益が、バブルサイズに反映されるのである。つまり、大企業のシェアの位相図には大企業の稼いだ経常利益、中小企業の位相図には中小企業の稼いだ経常利益が、バブルサイズに反映される。大企業のピンクのバブルがだんだんと大きくなり、中小企業の紺色のバブルが伸び悩んでいることが、図 10.2 から伝わってくるのである。

次に、図10.2の3つの位相図を前後に分離して表示し、同じ時点同士を直線（リンク線）で結んだグラフを図10.3に示す。もし大企業・中堅企業・中小企業の規模別のシェアの位相図が、同じ動きをしていたら、リンク線は相互に平行になるはずである。だが、理論的にはそのようなことはあり得ないのである。構成比である以上は、常に $x + y + z = 100$ の関係が成立するのであり、あるシェアが増加すれば、必ず他の2つのシェアの合計は減少するのである。トレードオフ (trade-off) は二者の間で見られる現象であるが、三者になっても同様の現象が生じる。このことは昔から「三つ巴」「三すくみ」の言葉がある

図10.3 法人企業の経常利益の大・中堅・中小企業のシェアの位相バブルグラフのトレードオフ



ことから分かる。ともすれば忘れがちであるが、常に意識しておく必要がある。図 10.3 では特別にリンク線を太くして表示している。中小企業と大企業でリンク線が激し